岡山畜産便り 1964.01

乳牛の見方（上）

岡山県酪農連合会　松　田　嘉三次

現在乳牛を飼われている方も、これから買われる方もぜひおよみ下さい

はじめに

農業経営の改善のホープとして、多年注目され期待されている酪農も、儲かっているものばかりでなく、なかには損をしているものもある。これは何に原因があるか究明して、それを改善しなければならない。

まず儲かっていない原因を大別すると、

１、経営の不合理

２、飼養管理技術の未熟

３、乳牛の能力不良

以上３項が考えられる。１、２項目は他日にゆずり、３項を取り上げ能力のよい乳牛とはどんな牛であるかを研究したい。

乳牛の良否選ぶ方法を相牛という。

酪農経営で対象となる牛は牝であるから、牝について検討する。

良い乳牛とは

（1）　品種の特徴を具えていること。

（2）　牝らしく品位がよいこと。

（3）　性質温順であること。

（4）　健康で繁殖能力がよいこと。

（5）　体の大きさ、体重は年令に応じた発育をしていること。

（6）　体各部のつり合いがよいこと。

（7）　資質がよいこと。

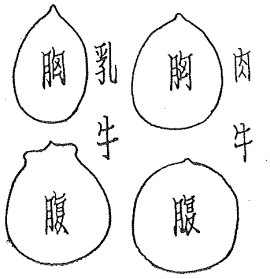
（8）　乳器がよいこと。

以上は乳牛の牝の選択規準の大要であり、これに合致するものは優秀な乳牛であるといえる。

一　般　外　貌

優秀な乳牛は３つの楔形をしている。これは呼吸器、消火器、生殖器、乳器がよく発達していることの現れで、生活力強く、飼料の利用性に富み、従って乳を多く生産し、繁殖も旺盛である。

乳牛の３つの楔形とは、前から見てき甲を頂点としたもの、横から見て頭を頂点としたものである。



乳牛の体躯の構成は、鋭角的で骨張り贅肉のないものがよい。肉牛は大体方形で肉付よく丸々しているものがよい。乳牛と肉牛の胸部と腹部の横断面の比較をして見ると図の通りである。

品位の良し悪しは、改良の進度を現しているものである。品位は頭部、頸部によく表現されている。

頭は小形で充実して、輪郭鮮明で、頂に行くほど細いものがよい。

顔は輪郭鮮明で、長さ中等であるものがよい。顔の短いものは早熟で能力が一般的に低い。長いものは晩熟で、能力は短いものに比して高く、細長いものは能力低い。

額は広く、やや凹んでいるものは、健康で能力高く、繁殖力も強いものが多い。狭いものは不健康で能力低い、又額の旋毛の荒い大形のものは、低能力である。

眼は大きくまぶたうすく、活き活きとしていて、温和なものがよい。眼の鋭いものは性質きつく、眼に活気なくとろんとしているものは、病気か寄生虫がおる疑がある。眼はその牛の健康と性質がよく判る。

鼻、鼻梁は真直ぐで、鼻鏡広く、鼻孔の大きいものは、肺活量が大きく健康で、従って能力も高い。

口は大きくてよく緊り、唇は厚く、口裂は大きく深く、顎の強いものは、物くいよく、消化器もよく発達している。

耳、質よく薄めで、大きさ中等で、しっかり附着していて、恰好よく、外部の状態に従って、よく動くものがよい。粗野で粗い毛が、耳の内外に密生し、

肉の厚いものは能力が低い。

角、質は緻密で、細めで形、方向のよいものがよい。質粗く太過ぎるものは能力が低い。角の方向は能力に影響しないが品位の良否に影響する。角輪は妊娠泌乳した回数をあらわしているものである。角輪が著明にあらわれているものは、過去に高い泌乳能力を表現しているものである。しかし大病に罹った時と角輪が生じるものであるから、よく調査の必要がある。

頸、薄く巾広く中等で、すんなりと美しく、肩と胸への移行のよい、胸垂や顎垂の小さいものがよい。又皮膜うすく弾力とゆとりがあって、被毛も細く柔かく、こまかい縦皺があるものは、品位よく能力が高い。太い短い頸は肉用形で、泌乳能力は低い。

肩、しっかりと附着し、ほどよく傾斜していて、頸と胸への移行がなめらかで、肩胛骨の大きさ中等のもの、肩端の粗大でないものがよい。肩の立ちすぎて附着の弱いものは、体形が崩れやすい、傾斜の大きいものは羽交肩になりやすい、肩端の粗大なものは泌乳能力が低い。

き甲、経産牛のき甲は、楔形で厚くなく薄くなく、上部やや円味を帯びているものがよく、背椎骨と肩甲骨の接合の悪い二枚肩、三枚肩になっているものは、肩の付着弱く、永年の飼料に耐えない。又厚い円いき甲は肉牛タイプ、泌乳能力悪く、薄いとがったき甲は体質弱く、泌乳も長つづきしない。未経産牛のき甲は多少厚いのが普通で、１産搾乳すれば適当な薄さになる。

背、真直ぐで長く強く、肩と腰への接合よく、又棘状突起のよく顕われているものがよい。背椎骨は13 個で形成され、き甲部には５～６個、背部に７～８個である。棘状突起は真直に並列して、間隔広く、よく顕われていて背の巾の広いものがよい。巾の狭く鋭いものは、肌骨の開張も悪く体質が弱い。

腰、背と水平で広く、後方に広がって強く上面平らなものがよい。腰椎骨には左右に水平に横突起が突出している。腰で重い腹部を支え、重い乳房を釣下げているわけであるから、腰椎骨は強く結合していなければならない。

尻、長く巾広く上面水平で面積の広いものは骨盤大きく、子宮の発達もよい。従って胎児の発育もよく安産することが出来る。又尻の下面に附着する乳房も長く巾広く附着し、乳房の容積が大きい。傾斜の強いものや、面積の小さい尻は、乳房の附着も狭く、その容積も小さく泌乳量も少い。腰角は広く背腰と殆んど水平で、鮮明でよく顕われているものがよく、粗大なものは能力低い。臆は巾広く腰角、坐骨よりやや低く、その真中に位置し、それ等の各点を結ぶと底辺の長い逆三角形となるものがよい。坐骨は腰角とほぼ水平で、その間隔広く、鮮明にあらわれているものがよい。坐骨間の狭いものは、分娩の時にその産せまく難産をすることが多い。又股間狭く従って後乳房の付着を狭くする。

臀は垂直で広く平らなものがよい。

尾、尾根は坐骨の中央やや上部に形良くついているものがよい。尾は根元は太く尖端に行く程細くなり、尾杖は飛節の下まで延び、尾房はふさふさと豊かなものがよい。尾杖が長いものは、顔、頸、体長も長く泌乳能力も優れている。尾の敏感によく動く活力のあるものは、健康のあらわれである。病気の時は尾も動かさない。

（つづく）